

体験活動プログラム危機管理セミナー (19:00～20:00)

2024年6月24日

本部社会連携推進課 体験活動推進チーム

19:00に開始します。

録画やスクリーンショットは
ご遠慮ください。

質問は、チャットから全員へ、
または、ホスト宛にお送りください。



海外危機管理資料



日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

<http://www.emergency.co.jp>

1. 海外での危機管理：海外における事件・事故の現状

＜海外で邦人が巻き込まれたトラブルの総数とその種類・・・通常の人流がある場合＞

『交通機関事故』
(ほとんどが交通事故)
に次いで多いのが『レ
ジャー・スポーツ事故』

	総件数	総人数
事故・災害	245	347
犯罪加害	394	395
犯罪被害	4,768	4,321
その他	15,223	17,286
総数	20,630	22,349

主なものは『出入国・査証関係
犯罪』だが、国によっては非常
に重い量刑が科される『麻薬
犯罪』は34件(30人)

最も多く全体の4分の1を占める。
内訳は多い順に『窃盗被害』
『詐欺被害』『強盗被害』となっ
ている。

出典：海外邦人援護統計(2019.12)/外務省 領事局 海外邦人安全課

1. 海外での危機管理：これまでの主な事件や事故

- ・ベルギー・ブリュッセルにおける連続爆破テロ事件により日本人2名の負傷
- ・フランス・パリにおける銃撃と爆弾によるテロ
- ・バングラデシュにおける複数の日本人が巻き込まれたレストラン襲撃事件
- ・タイにおけるクーデター発生
- ・インドネシア・バリ島沖で日本人ダイバー7人が漂流、死亡1人、行方不明1人
- ・ネパール・ヒマラヤ山脈マナスルで日本人登山者が滑落し死亡
- ・米カリフォルニア州で、日本人留学生8人が乗った乗用車が事故、3人死亡、5人重軽傷
- ・トルコ観光地で卒業旅行中の女子大生が被害に遭う事件
- ・ルーマニアにおける日本人女子学生がタクシードライバーに襲われ死亡
- ・エクアドルで流しのタクシーを利用したことによる特急誘拐と、抵抗したために被害に遭った日本人夫婦の事件
- ・コロンビアにおけるスマートフォン・タブレットの強盗と追いかけたために被害に遭った日本人学生の事件
- ・ニューヨークの地下鉄の駅で、8人の若者に殴られ地面に叩きつけられ骨折した日本人ピアニストの事件
- ・ソウル・イテウォン繁華街におけるハロウィーン雑踏事故での死亡

1. 海外での危機管理：援護の多い在外公館

順位	場所	件数
1	在 タイ	1,457
2	在 フィリピン	906
3	在 ロサンゼルス	809
4	在 英国	797
5	在 ホノルル	669

順位	場所	件数
6	在 香港	667
7	在 フランス	646
8	在 サンフランシスコ	607
9	在 ニューヨーク	587
10	在 韓国	503

通常の人流がある場合

※在タイ日本国大使館が最も多い。

※11位以下は、在バルセロナ、在上海、在シアトルと続く。出典：海外邦人援護統計(2019.12)/外務省 領事局 海外邦人安全課

2. 安全を高めるために：情報収集と分析

一般情勢と地域別、広域的情報などを収集し、総合的に判断する習慣を

- ① **外務省 海外安全情報** <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
一般犯罪、政情、治安情勢、医療情勢など総合的な情報
- ② **渡航先の在外公館安全情報** <https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/list/>
現地特有の多発型一般犯罪情報や治安情報、生活情報（殆どの公館のHPで公開）
- ③ **英、米、加、豪など諸外国政府の安全情報** <https://www.josa.or.jp/link.html>（リンク下段）
主として、欧米向けの政治経済社会関連やテロ情報
- ④ **メディア情報と現地の報道（TV、ラジオ、新聞）**
特に、現地の報道は広く知られていない現地特有の情報源
- ⑤ **厚労省検疫所、国立感染症研究所の感染症・医療情報**
<https://www.forth.go.jp/index.html>
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>
- ⑥ **渡航先の機関、滞在先等カウンターパートよりの情報**
現地での交友関係や人脈からの情報

2. 安全を高めるために: 外務省 海外安全ホームページ

外務省 海外安全 ホームページ

お問い合わせ先 サイトマップ 日本語環境でない場合 外務省 Ministry of Foreign Affairs of Japan

文字サイズ変更 小 中 大

Facebookもチェック 友だち追加

国・地域別 目的別

ホーム 海外安全情報 海外旅行 海外出張／ビジネス **海外留学／海外修学旅行** 海外生活

ホーム > 地図からの選択

地図からの選択

確認したい国・地域をクリックしてください。

危険レベル

- レベル1 十分注意してください。
- レベル2 不要不急の渡航は止めてください。
- レベル3 渡航は止めてください。(渡航中止勧告)
- レベル4 退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)

危険情報 感染症危険情報

+で拡大すると国・地域名が表示されます。

：「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」

つきましては、ソングラー県(ジャナ郡、テーパー郡及びサバヨイ郡を除く)への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には、特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとって下さい。

タイ

レベル1

レベル2

レベル3

1 チャイナート
2 シンブリー
3 アントーン
4 アユタヤー
5 ナコーンナーヨック
6 バトゥムターニー
7 ノンタブリー
8 ナコーンバトム
9 バンコク
10 サムットブラーカーン
11 サムットサーコーン
12 サムットソングラム

イギリス外務省 安全情報 Website

Terrorism

There is a high threat from terrorism. Bomb and grenade attacks have been indiscriminate, including in places visited by expatriates and foreign travellers. You should follow the advice of the local authorities, monitor local media reports and remain vigilant. Further incidents are possible in any part of Thailand.

Martial law has been in place in the provinces of Pattani, Yala, Narathiwat and in the Sadao district of Songkhla province since 2006. The security authorities can detain suspects without charge, censor the media, conduct searches and seize documents. The FCO advise against all but essential travel to the provinces of Pattani, Yala, Narathiwat and Songkhla. In April 2014 the Australian authorities indicated that extremists might be planning to target westerners in the southern border provinces.

There is considered to be a heightened threat of terrorist attack globally against UK interests and British nationals, from groups or individuals motivated by the conflict in Iraq and Syria. You should be vigilant at this time.



アメリカ国務省、カナダ政府 安全情報 Website

アメリカ

Violence in Southern Thailand - Yala, Pattani, Narathiwat, and Songkhla: The deep south of Thailand has experienced almost daily incidents of criminally and politically motivated violence for many years, including acts attributed to armed local separatist groups, resulting in more than 6,000 deaths since 2004. Most targeted attacks are directed at security officials and Thai government interests. Bombings have also struck public and commercial areas. On May 6, 2014, explosions in downtown Hat Yai in Songkhla Province targeted a police station and a 7-Eleven convenience store, injuring ten. On May 24, 2014, three people were killed and 73 injured in multiple bombing attacks in a busy part of Pattani, including at three 7-Eleven convenience stores. The July 25 bombing of a hotel in Betong, Yala—an area popular with Malaysian tourists—killed three people and wounded over 30. Past attacks include the almost simultaneous bombings in 2012 at one of Hat Yai’s largest hotels and a Yala commercial district, which together killed at least 13 people and injured hundreds, including a number of tourists from other parts of Southeast Asia. A separate car bomb attack on an upscale hotel in Pattani in July 2012 injured three people.

The U.S. Embassy prohibits its personnel from traveling to the far south of Thailand – specifically, Narathiwat, Pattani, and Yala provinces – without prior approval, and Embassy personnel may go there only on work-essential travel. U.S. Embassy and Consulate personnel must provide advance notification of travel to Songkhla province, and they are advised to use hotels outside Hat Yai’s central business district. The Department of State urges you to defer non-emergency travel to these areas. If you must travel to these areas, you should exercise special caution and remain vigilant with regard to your personal security. You should be aware that martial law has been in force in the far southern region since 2005, and Thai authorities have on occasion instituted special security measures in affected areas, such as curfews, military patrols, or random searches.

カナダ

Advisories

Southern provinces of Narathiwat, Pattani, Songkhla and Yala - Avoid all travel

Global Affairs Canada advises against [all travel](#) to and through the far southern provinces of Narathiwat, Pattani, Songkhla (including the city of Hat Yai) and Yala. These provinces have been experiencing criminally and politically motivated violent incidents. See [Security](#) for more information.

オーストラリア政府 安全情報 Website

Southern provinces - Yala, Pattani, Narathiwat and Songkhla: We strongly advise you not to travel at this time to the southern provinces of Yala, Pattani, Narathiwat and Songkhla, or overland to and from the Malaysian border through these provinces due to high levels of ongoing violence in these regions. This includes travel by train or road between Thailand and Malaysia.

We advise against all travel here due to the very high risk. If you do travel, you should typically seek professional security advice. Be aware that regular travel insurance policies will be void and that the Australian Government is unlikely to be able to provide consular assistance.



2. 安全を高めるために：外務省・在外公館の機能

外務省による情報提供（海外安全ホームページ）

渡航情報（危険情報、スポット情報、広域情報、安全対策基礎データ、テロ・誘拐情報）

在外公館による支援

緊急電話対応

136の公館で夜間、休日を含め24時間、117の公館では現地語でも対応

事件事故等に際しての邦人援護

緊急時対応等に関する相談、事件事故発生時の安否確認、現地警察等への支援要請等

在留邦人、渡航者向けの安全に関する情報発信

各大使館、総領事館のHPにて所管の国、地域の安全情報・治安情報や注意喚起を発信

在留邦人への一斉メール同報システムにより「お知らせ」や「注意喚起」を配信

滞在国政府が情報統制でインターネット回線や電話回線を遮断する場合、日本の大使館・総領事館には衛星電話があるため、

その際の現地で支援を求める先のひとつとなる。予め大使館・総領事館の場所およびそこまでのルート、交通手段を調べておくこと。

在留届の提出と在留邦人向けメールマガジンの登録をおすすめします。

在留届は3ヶ月以上滞在する場合に届出、現地での住所等の変更や帰国時にも届出

⇒ 大規模な自然災害、事故等、緊急事態の発生に際しての緊急連絡や安否確認の資料

2. 安全を高めるために：渡航前に必要な準備

✓健康状態を整える（若さ ≠ 頑健、抵抗力＝免疫力維持）・歯の治療は済ませておく。

✓旅行スケジュールの策定

- ・航空機の予約の際に気を付けることとして、現地の空港に到着する時間については朝一番から昼くらいまでの便にして、現地では明るいうちに目的地に到着できるようにしておく。
- ・航空券は、予約変更可能か否か等、必ず自身でチェック！感染症や紛争の影響で、各国で渡航制限が始まり、予定通りの出発や帰国が出来ず、予約変更が出来ない場合は、チケット代が無駄になるケースもある

感染症や紛争の影響により帰国時期の航空機が減便になるとき・・・航空券の入手が難しくなり航空運賃が急騰！

→ 中・長期の留学の場合、航空券の種類については、復路便の運賃も含まれ、帰国日が変わっても変更することが可能なオープンチケットを購入することが賢明

- ・極力フライトの経由地を少なく、ハイリスク地域を通過するルートは避ける。

トランジットは経由地国での感染症に係る入国条件や必要書類、検査等がある場合、経由地の空港で時間を要したり新たな出費の可能性があるため、可能な限り直行便を利用する

✓旅券の残存有効期限、ビザと予防接種の有無

- ・旅券は必ずコピーもして、持っていく。紛失を想定し、パスポート用写真も持っておく。
- ・ビザ申請時に、一時帰国の発生を懸念する人は、必ず面談の際等に質問してクリアしておく。

✓海外旅行保険等で高額治療に備える

- ・治療費用・救済者費用・賠償責任・携行品損害などの補償に入ること。
その際も、治療費用・救済者費用は1億円以上の補償に入ることが望ましい。

✓現金は必要限度に 小銭は用意

- ・トラベルプリペイドカード（渡航前に日本国内で入金し、海外でキャッシュカードとしてATMから現地通貨を引き出すことができる。
紛失、ATM飲み込まれに備えてスペアカードがあるもの⇒ [Cash Passport](https://www.cashpassport.jp): <https://www.cashpassport.jp>)

✓連絡体制の確認（警察、消防⇒電話番号、クレジットカード⇒番号、発行会社名、緊急連絡先など）



2. 安全を高めるために：安全に関する認識のリセットと心がまえ

1 安全に関する認識のリセット

● まだまだ安全な日本 ↔ 水も安全もタダではない外国



- .. 言葉からして不慣れ ⇒ 自ずと目立ちやすい／余裕のなさから表面に出る隙
- .. 対策に唯一無比の正解はない ⇒ 複数の経験者に話を聞く
- .. 甘えを捨て、自ら自分を守る意識を（誰かが教えてくれる？⇒甘くない現地社会）
- .. 自動車やオートバイの運転は絶対にしない⇒ 交通法規や遵法意識が日本と異なる国が多く、大きな事故に遭いやすい 補償など事故後のトラブルも考慮する
- .. 「荷物から目を離す」「荷物で席を取っておいたりトイレに行く」
⇒ 多くの国では「盗まれても当然」の行為（非常に多い置き引き・すり・ひったくり）



● プロでも完全防止は無理

- .. 何よりも命を守り、深刻な怪我を防ぐ 無傷で終われないときを見極め、制圧されたら抵抗しない
- .. 最悪時も次の動きをカバーするバックアップ・危険分散の備えを

→ 貴重品入れ： 外から見えない肌着タイプの腰巻貴重品入れを利用

- .. 首にかけの貴重品入れ ➡ 紐を引きちぎられ奪われる / パスポート ➡ 移動中は スーツケース/バッグ に入れない

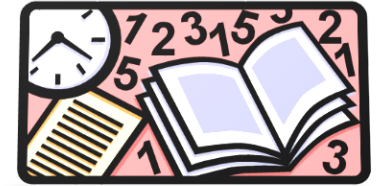
→ 携行金品： 奪われてもよい財布（追い銭）・タクシーで帰宅できる予備金を

- ・盗難・窃盗にあう想定の下、ダミーの財布に20米ドル程度紙幣を入れ、胸ポケットなどに入れておく
お金を要求されたときは、相手の顔を見ない、自分でポケットに手を入れて渡さない（武器の所持を疑われ先制攻撃される）
⇒ 視線や指差して胸ポケットなどにダミーの財布があることを示し、相手に取らせるようにすること



2. 安全を高めるために：安全に関する認識のリセットと心がまえ

2 行動する範囲と時間の選択を丁寧に



● 君子危うきに近寄らず

- .. 誰もが共通に避けるべきと考えている場所の色分けを早期に学ぶ
- .. 判断しにくい行き先も、現地の先生、友人などに迷わず相談
- .. 通学ルート：誘拐対策などの観点から、時に変更する必要も
- .. 人が密集している場所に近づかない
(イベントなどの雑踏事故で群衆雪崩に巻き込まれ肺が圧迫されると、30秒で意識を失い6分で脳死状態に至る窒息死に繋がる)
- .. 抗議デモには近寄らない (感染症・紛争その他を起因) 政治的にセンシティブな発言はしない

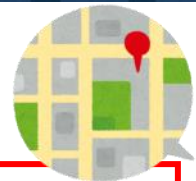
● どのような時間帯・条件で危険が高まるか評価分け

- .. 夜間は外出しない。夜間以外も人気の減る時間は要注意。 首絞め強盗など
- .. 女性・高齢者の独り歩きは標的になりやすいことを自覚
- .. 自分が泥棒の側ならどうするかを逆に考えてみると？



● 毎日の予定や行き先を家族や仲間で共有

- .. 何かの時に、早期に支援を得られるようなネットワーク作り



「スマートフォン」の利用時は必ず周囲を確認してから！

データは常に
バックアップを！

- ※ ひったくりが急増、不審者・スクーター・自転車が周りにいないことを確認
- ※ 歩行中も含めて人が多くいる場所で利用すると、誰が犯人かわからない形でひったくられる
- ※ 地下鉄車内など公共交通で犯人の降車時に奪われる事件が多発、車内でも人前で利用しない

※ ひったくりに遭っても絶対に追いかけないこと！武器の所持や仲間がいる可能性が高い。



2. 安全を高めるために：特に留意すべきこと

- ・目立たない服装と装飾品、身振りや言葉使いについて留意。☛ 女性が単身で行動する時は、**本人が気にする以上に周囲は注目**していることが多い。
- ・「近づいてくる人」「不必要に親切心を示す人」には要注意。どのような場所でも、お金に関する話が出たら詐欺や強盗の被害に遭う可能性あり。
- ☛ 最初は皆、困った善良な市民を装う。車から地図を出して道案内を頼んできたり、スマホのマップが機能しないことを理由に日本人学生のスマホを利用する。立ち止まり話を聞いて車に乗ってしまうと、銃を突き付けられてATMまで連れていかれ現金を奪われたり、スマホを操作させられ出金する詐欺に遭う。
駅や空港内、歩行中や自転車走行中に 不規則発言 を投げかけられても、「無視して」歩行や走行を継続することが基本。相手の車には絶対に乗らない！
- ・常に「毅然とした」姿勢 を貫くこと。「Yes , but …」ではなく、まず **No !** が肝心。
- ・外出先で、不用意に道案内を求めることのないようルートを事前にチェックし、ホテルの連絡先が載っているカードも持って行くこと。
不特定多数へ宿泊先やスケジュールを伝えない。外出時にローカル紙を小脇に抱えるなども防衛策のひとつ(地元の人のイメージ)。
- ・**タクシー利用の場合**、実施先指導教員やスタッフ、キチンとしたホテルのコンセルジュに、**安全で信頼のおけるタクシー** についてアドバイスを受けること。
- ☛ 必ずタクシー会社に電話する/ホテルに呼んでもらう、または、記録が残るアプリを利用すること。
路上でタクシーを止めて乗らない、誘われても乗らない(強盗や暴行に遭う事件が多発)。ヒッチハイクは絶対にしないこと。
- ・**各種詐欺に注意！**
- ☛ 自分で行う部屋選びは大学介在の紹介で —— **ネットの紹介サイトは、部屋自体の現物がないなど詐欺やトラブルが多い。**入居前は鍵を替えてもらう。
- ・**歩行者として歩く場合**、バッグなどをたすき掛けしていると、車やオートバイで奪われる時に体から離れず転倒して頭を打つなど大怪我をする。
- ☛ バックなど、たすき掛けが推奨される情報もあるが、たすき掛けはやめて肩から外れるようにする。**貴重品や大切な物はバッグに入れず、身に付ける。**
- ・**大麻・麻薬・指定薬物等** に関する留意点
- ☛ 国外犯処罰規定が定められており、当該国で合法であっても日本人には罰則が適用されることがある。意識が混濁した際に貴重品を盗られる事件も発生。
他人の荷物は預らない。(麻薬やマリファナなど違法薬物が入った荷物を知らずに日本に持ち込む手伝いをさせられ、現地路上や空港でトラブルになる)
- ・**他人から差し出される飲食物**
- ☛ **絶対に口にしない。**「ドラッグや睡眠薬」を仕込まれ、男女ともに「性的暴行や強盗」に遭うケースが多発。犯人は「高齢者や子ども連れ」の場合も。
- ・**夜の外出**—— 基本的にしないが、やむを得ない場合
- ☛ 信頼できる知人や仲間、おおよその予定を伝えたりメモを残すなど、自分が音信不通となった場合に、異常に気付いてもらえるように工夫する。
- ・**「大声で助けを求める」**時は、「HELP …」ではなく、**FIRE !** と叫んだ方が、周囲に伝わる。



2. 安全を高めるために：テロの現場



2. 安全を高めるために：テロへの対処法

参照：国際テロリズム要覧/ 公安調査庁 他

● 爆弾テロ…予測は不可能だがリスクを低減させるために

爆風⇒秒速800～2000m(マッハ2)、熱は800℃～1000℃。爆弾の周囲にあった物体が高速で飛んでくる。
ライフルの弾丸⇒秒速800～990m 歩行者を殺傷する目的で走行する車両にも留意すること。



※ 爆発音や銃声を聞いたらず伏せる。

爆発音・銃声を聞いたらず直ぐにうつ伏せになり、飛来物から左右どちらかの脚を守るために、脚は大きく開き、かかとを床面につける。頭の左右どちらかの側面を床面につけ、両手で頭を守る。その後、周りの人の動きや音を確認し、安全と思われる方向に逃げる。

.. 建物の外で爆発

→ 現場に近寄らないこと。若干の時間差を置いて2回目、3回目と大規模に爆発させることがある（駆けつけた救助要員・治安要員を殺傷する目的）。爆発音を聞いたらず建物内の保護された区画に留まるか、安全と思われる方向に逃げ、2回目、3回目以降の爆発に備える。高層ビルが爆破の対象となった場合は、ガラスを含む破片が降り注ぐため建物内に逃げ込むこと。

.. 自爆テロ犯の特徴

→ 爆発物を固定したベルトを腹部や大腿部に装着する場合は動きがぎこちなく、夏場でも不自然に厚着をする。リュックサックに爆発物を入れている場合もある。爆発のためには電気導火線同士を接触させる必要があり腹部や大腿部等をまさぐるが、遠隔操作式の場合もある。爆発の際は意味不明の言葉を叫ぶこともある。

● 襲撃テロ…小火器や、手榴弾等を用いる襲撃

状況次第であるが、テロリストが銃に弾を再装填する時間も逃げる機会となることもある。
最後まであきらめずに生存のチャンスを追及することが重要。



.. ホテルや施設における襲撃

→ 銃撃の際も低い姿勢をとり、テロリストの視界に入らないように隠れる。状況次第であるが逃げられるのであれば、遮蔽物に身を隠しながら点と点を結ぶようにジグザグに逃げる。ホテルなどで逃げられない場合はドアの鍵を閉め、床に伏せたりベッド下等に潜り込むことが賢明（銃器の乱射から身を守る）。ホールなどで身を隠す場合は通信手段は身につけておくが、携帯電話等のコール音・バイブ音は鳴らないようにする。間に合わない場合は、遠くに携帯電話を投げ捨てる。

.. テロリストに包囲された時

→ 相手の目を見ない。両手を挙げ、敵意を全く持っていないように振る舞うこと。

.. イスラム原理主義過激派によるテロの場合は クルアーンの言葉が何か言えるか と問われる場合がある。状況に拠り正解はないが、知らないよりは知っておいた方がよい。

参考：バングラデシュのテロ事件→実行犯が日本人を含む外国人グループにクルアーンの一節の暗誦を求め、暗誦できなかった18人全員を処刑
単に言葉を覚えるのではなく、特定の宗教を信仰する世界の人の立場で考え、教養として言葉の重みと宗教への理解を深めることも重要

・私はアッラーのほかにイラー（崇拝の対象）はないことを証言します。… “アシュ ハドゥ アッラー イラーハ イラッラー”

“Ashhadu alla ilaha illallah

・また、私はムハンマドがアッラーの使徒であることを証言します。… “ワ アシュ ハドゥ アンナ ムハンマダン ラスールッラー”

wa ashhadu anna muhammad rasulullah”

● 救出作戦時の留意事項… 救出側から指示が伝達された場合→その指示に従う。 救出作戦が突然始まった場合→机の下、椅子や遮蔽物の背後に身を隠す。

※ 救出部隊が突入してきた時は、床に伏せ、動かず、声も上げないこと。（救出部隊は動く者をテロリストと誤認する可能性が高く、反射的に射撃するため）この段階ではいかなる動作も、負傷や死につながりかねない危険を有している。ドアや窓の近く、オープンエリアからは離れておく。

※ ここでは万一遭遇した場合に備えての対策の一例として、日本人が実際に被害に遭ったイスラム原理主義過激派による事件への対応例を含めてご紹介しましたが、テロは特定の宗教に由来するものではなく、様々な反社会的な考えや行動を持った人・グループにより発生しています。

2. 安全を高めるために：テロへの対策法

● 情報収集と心構え…当該地域の安全に関する事前の情報収集と自らがテロリストの標的にならないよう行動に気を配る。

… 情報収集のためのツール

→ 把握するポイント… 当該地域で活動しているテロ組織の性質や活動状況、治安情勢、対日感情、治安機関の能力や信頼性 外務省海外安全ホームページ 公安調査庁HP世界のテロ等発生状況・国際テロリズム要覧、米国国務省領事局 travel.state.gov の Travel Advisory 等の参照

現地最新情報の入手… 現地メディア報道、現地学生・現地採用等在留邦人などの人的情報源ネットワークの活用

… ハード・ターゲットとなるために 周囲の状況をよく見極め、不審な気配が感じられる際には、その場所からすぐに退避する。

→ 不特定多数の人間が集まる場所には長くともどまらない 欧米人の好むカフェなども避ける

… 駅、空港、デモ、文化施設、政党の集会、バザーなどは襲撃の対象とされることが多い。長居は避け、不審物には近寄らない。

不特定多数が参集しテロの標的になる可能性があると考えられる一般的な施設・場所の例

地下鉄・鉄道駅、空港、スタジアム、大型スーパーマーケット、著名な広場、大規模レジャー施設、
ロックやラップのコンサート会場、ディスコ、スポーツバー、ゲームセンター等の遊興施設 等

その他テロの危険性が示唆されている施設

治安機関施設（保安施設や交通警察署詰所など）、政府等関連施設、権力を象徴する施設、ユダヤ系施設、
都市機能の保全施設、水利施設、石油精製工場等の生産関係施設、欧米の大使館、イスラム教シーア派施設 等



→ 個人情報等を公にすることは極力控える… 犯行のヒントになる可能性もあるため。

→ 行動予定などの情報の共有は真に必要な者に限る… 現地情勢に不案内とみられると、拉致・監禁テロなどの対象になりやすい。

→ 行動のルーティン化を避ける… 毎日同じ時間、同じ場所を通ることは可能な限り避ける。毎日同じ店で同じ時間帯、同じ席に座ることも避ける。

● 航空機搭乗の際のポイント…テロ組織の標的となっている国や空港、航空会社はなるべく避ける。

… 座席選択の際のポイント

→ 可能であれば、航空機後部・窓側・非常用扉付近の座席を取る

… 通路側の座席は機内で銃撃戦などが発生した場合に流れ弾に当たりやすい。テロリストはコクピット付近の制圧を最優先にするのでそこから離れた後部の座席も比較的安全性が高いと考えられている。非常用扉付近の座席は、救出作戦の際には脱出の機会が高まる可能性がある。
ファーストクラス・ビジネスクラスはテロリストにとって利用価値の高い重要人物が乗り込んでいると認識され、ハイジャックの際の司令塔に利用される可能性が高く注意が必要である。

参照：国際テロリズム要覧/公安調査庁 他

2. 安全を高めるために:「ヘイトクライム」に留意

・コロナ禍で発生したアジア系人種に対する差別とヘイトクライム

「ヘイトクライム」とは、人種、宗教、国籍、民族性、性的傾向に対する偏見に基づく犯罪。以前から人種に係る差別や犯罪は各地域で存在していたが、中国由来とされるコロナ感染症の世界的な拡がりを契機に、風貌が類似しているアジア系人種に対して差別および暴力も伴うヘイトクライムが発生した。

・米国におけるアジア系に対するヘイトクライムの報告: 6,273件 (2021年) 米国民間団体Stop AAPI Hate 調査

被害者の61.8%が女性

行為の内容・・・「暴言」63.0% 「身体的な暴力」16.2% 「露骨に避ける」16.1% その他

「咳をされる/唾を吐かれる」、「職場での差別」、「サービス提供、入店、交通機関の拒否」など

ヘイトクライム発生メカニズム

新型コロナウイルス感染拡大  WHY?

↓
ロックダウン、経済活動の制限に伴う

観光業、輸送業、サービス業の
極端な不振 

↓
世代各層における失業と貧困

↓
不安やフラストレーションの増大、
政治家による

煽動(コロナ中国起源説)、政策

未然に危険を回避し、自身の安全を守る行動を

- ・帽子やフードの着用により、外見の露出を減らす 
- ・外出時は可能な限り複数人で行動、人気のない場所や夜の1人歩きをしない 
- ・暴力被害に遭う恐れを少しでも感じた場合には、速やかにその場から離れる
- ・見知らぬ者から注意を引くような言動をされてもにしない、刺激しない 
- ・車両から声かけや嫌がらせを受けた場合は、車両と反対方向に立ち去る
- ・公共交通機関利用中や歩いて移動している場合、周囲の状況把握のため、携帯電話の画面を注視せずヘッドホンも装着しない 
- ・鉄道は車掌が乗っている車両を選んで乗車 車掌室 

2. 安全を高めるために：もしもトラブルにあったら

■ 現地の警察に被害届を

窃盗、詐欺などの財産被害にあったら、まず現地の警察に被害事実を届け出て、被害届の受理書（ポリスレポート）を受け取りましょう。パスポートの再発給や保険請求に必要な為です。

※クレジットカードの紛失あるいは盗難にあった場合は、不正使用の恐れがあるため、大至急クレジット会社に連絡し、カードの無効手続きを行う必要があります（本人からの連絡が原則）。



■ OSSMAヘルプライン に相談

■ 所定の手続きを迅速に進める

- ・旅券………最寄りの日本大使館あるいは日本総領事館
- ・各種カード…カード発行会社⇒連絡先は、事前に確認の上、メモして常に携帯
- ・その他、困った時は、OSSMAヘルプラインに相談、連絡し、助言を受けて下さい。



■ 軽い怪我でも治療のため病院へ

路上強盗や睡眠薬強盗などにあった場合、いくら軽い症状でも後遺症が出る可能性もあります。安易な自己診断は危険ですので、最寄りの病院で診察を受けることをおすすめします。



■ トラブル時の海外での現金受け取り方法



セブン銀行 海外送金サービス（提携している約200カ国51万拠点の Western Union 系受取可能）

送金・受取方法詳細 <https://www.sevenbank.co.jp/soukin/jp/>

送金の受付から最短数分で受取可能。現金の盗難時など急いで送金したいときに便利です。



日本からは、セブン銀行ATMやインターネットなどから24時間365日送金ができます。予めのお手続きが必要です。
セブン銀行ATMは、日本国内のセブン-イレブンや商業施設、駅、空港などに、約2万5,000台以上設置されているので便利です。

3. 海外旅行保険：日本と海外の治療費用の違い

海外で病院にかかった場合、治療費は日本と同じなのでしょうか？

(例) 盲腸手術入院時

都市名	治療費用
ホノルル	232.1万円
ニューヨーク	194.5万円
ジュネーブ	186.8万円
上海	136.4万円
ウィーン	109.3万円
日本	40万円

(例) 急性胃腸炎で外来受診時

都市名	治療費用
ホノルル	34,300円
ニューヨーク	57,200円
ジュネーブ	16,600円
上海	11,400円
ウィーン	36,700円
日本	7,400円

海外における医療費は、平均で日本の約4倍となる

同じ病気でも、国によって治療費用が異なり、日本よりはるかに高額になります。

3. 海外旅行保険：日本と海外の治療費用の違い

発生国	費用(単位：万円)	状況
スロベニア	3,800	観光中に意識を失い、脳内出血と診断され現地病院からヘリコプターで施設が整った病院へ搬送し、その後30日入院・手術。 家族が駆けつけ、医師・看護師付き添いでチャーター機により日本へ搬送。
フランス	7,400	フランスシャモニーでスキー中に転倒し頸部脊椎骨骨折し、ヘリコプターで搬送され入院・手術。3か月入院後チャーター機で日本に搬送されるが、搬送先の日本の病院で死亡。
ハワイ	4,300	往路の飛行機で意識が朦朧とし、到着後救急車で入院。肺炎・脳梗塞と診断され37日間入院。家族が駆けつけ、医師・看護師付き添いでチャーター機により日本へ搬送。
アメリカ	3,000	ホエールウォッチングのクルーズ船が波に揺れ転倒し、腰椎骨折で17日間入院・手術。家族が駆けつけ医師・看護師付き添いで定期便により日本へ搬送。

上記例では7,400万円が最も高い例ですが、治療の場所(アメリカ本土等)と入院期間によっては上記の例よりも高額になるケースも十分に発生すると考えられます。従って、治療・救済者費用が5000万円では不足するケースもあり、安心を得るという観点から1億円以上の補償をお勧めします。
参考：アメリカ本土ではICUに入院すると100万円/日の費用がかかります。

上記の例では保険金額を超過し、多額の自己負担が発生しているケースも含まれています。

日本エマージェンシーアシスタンス(株) 調べ

3. 海外旅行保険: 保険適用外になる場合

1. 保険に加入していても保険金が支払われず、アシスタンスが受けられないケースがあります。
2. 保険適用外の状況下でも、OSSMA は日本エマージェンシーアシスタンス独自の海外の提携医療機関およびプロバイダーのネットワークでアシスタンスを継続することが可能です。



- 世界7カ国に拠点・日本語コールセンターを設置 (日本、アメリカ、カナダ、イギリス、シンガポール、タイ、中国)
- 世界17,280の医療機関と3,252のプロバイダー(エージェント)と提携
- 緊急医療および航空医療搬送の専門医が対応 日本人医師80名、看護師・救急救命士62名と提携
- 世界40社と145機の専用航空機ネットワークを構築 緊急医療搬送が必要になった場合でも即時に対応が可能

保険適用外となる主な例

現地での法令違反(麻薬使用や無免許運転)による怪我や疾病

ケンカが原因による怪我

日本出発前から治療を開始している症状(=既往症)

自殺未遂による怪我や疾病・・・メンタル不調などによるものが多い

戦争、変乱(除くテロ)などによる死亡、怪我

グレーゾーンと保険会社が判断した場合

虫歯などの歯科疾病(歯科疾病特約付保がない場合)

携行品を盗難ではなく紛失した場合

現金、コンタクトレンズ

保険適用外となるケースは会員に治療費等実費および手配料をご負担を頂きアシスタンスを行います。

3. 海外旅行保険：クレジットカード付帯海外旅行保険について

クレジットカードには、海外旅行保険が付帯されているものがあり、渡航期間や旅費の支払条件によって適用となるものがある。

しかし、海外で万が一の際に必要な「治療・救援者費用」の補償額は十分ではないので、あくまでもこれらについて補償額が十分ある海外旅行保険の一部を補填するものと捉える必要がある。

必ず、自分の持っているカードに付帯する海外旅行保険の各保険金額（補償額）と、適用される条件について確認すること。

注意すべき点（各カード会社のカード付帯海外旅行保険の主な補償項目と補償金額例）

適用される保険日数： 60日～90日が限度

旅費の支払につき、そのカードを利用しなければ適用にならない場合（＝利用付帯）が多い。

必ず適用条件の詳細を確認すること。

傷害死亡・後遺障害：	なし	～	5000万円
治療費：	なし	～	300万円
救援者費用：	なし	～	300万円
賠償責任：	なし	～	5000万円
携行品損害：	なし	～	50万円

4. 渡航準備：携帯する医薬品について

・薬などについて 持参する薬や自身の症状に関わること

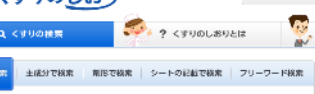
風邪薬や胃腸薬、頭痛薬等は普段から飲み慣れているものを日本から持参。

海外では医師の処方箋なしで買える薬は少なく、日本の薬に比べて一度の服用量が多い為、胃を悪くしたり、下痢になったりする場合もある。

持病やアレルギーがある場合は、病名や内服中の薬(商品名と一般名)、アレルギーについて英文で記載された診断書や検査データのコピーを予め準備する。常備薬も含め、効能と成分、特に主成分を英語で説明できるように調べておく。下記HPも参照のこと。

くすりのしおり <https://www.rad-ar.or.jp/siori/>

**【理由】日本から服用中の薬を持ち出す時、
入国時に成分・効能を尋ねられる。
明確に説明できないと麻薬の運び屋と
疑われ拘束されることがあるため。**



くすりのしおり (Medicine Bookmark) is a free online service provided by the Japanese regulatory authority, **Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)**. It is designed to help patients and healthcare providers find information about medicines and medical devices.

Brand name: RIFTERIN Combination Tablet

Active ingredient: Zimride

Dosage form: white tablet, disintegrating tablet

Print on wrapping: 解熱鎮痛剤、バファリン500錠

Effects of this medicine: This medicine shows antipyretic, analgesic and anti-inflammatory effects. It is usually used for the treatment of headache, neuralgia, rheumatism, etc.

Before using this medicine, tell your doctor and pharmacist:

- If you have previously experienced allergic reactions (itch, rash, etc.) to any medicines.
- If you have a problem with liver disease, renal disease or cardiac dysfunction.
- If you have a history of asthma induced asthma.
- If you are taking any other medicines, especially cardiac medication or tooth extraction with anesthesia.
- If you are pregnant or breastfeeding.
- If you are taking other medicinal products. (Some medicines may interact with medicinal products, beware of over-consumption and dietary supplements as well as other prescription medicines.)

・健康診断と予防接種について

訪問先で予防接種や詳細な健康診断が必要となる場合、

少なくとも出発の6～8週間前までに、かかりつけ医やトラベルクリニックに予約を取り、受診する。
※数種類や複数回の接種が必要な場合は十分な準備期間が必要→事前に医師に相談すること。

正しい予防接種を受けるためには、旅程について医療関係者と話し合うことが重要となる。

4. 渡航準備：予防接種について

参照：国立感染症研究所感染症情報センター・厚生労働省検疫所 HP等

破傷風菌は世界各地の土壌に存在する為、長期滞在の場合は事前に受けておくほうが無難。
中国や東南アジアに長期留学する場合は**A型肝炎ワクチン**を受けておく方が良い。

ワクチン	主な流行地域	滞在期間		接種回数
		短期	長期	
A型肝炎	発展途上地域 東南アジア・アフリカ	○	○	3回接種。 汚染された魚介類や水から感染する。
破傷風	世界各地	—	○	1回接種(基礎免疫ある場合)
狂犬病	世界各地	—	○	3回接種。野外活動を主に行う場合は接種を考慮する。犬だけではなく、猫やリス、アライグマ等からも感染する。
マラリヤ	熱帯・亜熱帯地域	○	○	予防薬複数回内服(使用薬剤により異なる)。 昆虫の媒介感染。
黄熱病	熱帯アフリカ・中南米	○	○	1回接種。昆虫の媒介感染。

渡航先の「黄熱予防接種証明書(イエローカード)要求」を下記URLのリストから確認し、必ず最新の状況を当該大使館に確認すること
厚生労働省 検疫所 https://www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html#world_list

トラベルクリニックで検索し、予防接種外来で予約の上、接種可能。数種類や複数回の接種が必要な場合は十分な準備期間が必要なため、予め医師に相談。

一般社団法人 日本渡航医学会ホームページ⇒ <http://jstah.umin.jp/02travelclinics/index.html>

独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター トラベルクリニック⇒ <https://travelclinic.ncgm.go.jp/>

厚生労働省 検疫所 予防接種実施機関検索⇒ <https://www.forth.go.jp/moreinfo/vaccination.html>

4. 渡航準備：予防接種について

下線があるものは予防接種が可能。

***ワクチンによっては、予防効果が弱い、あるいは効果持続期間の短いものがある。**

経口感染症	<u>A型肝炎</u> 、 <u>大腸菌性下痢症</u> 、 <u>サルモネラ症</u> 、 <u>コレラ</u> 、 <u>細菌性赤痢</u> 、 <u>腸管寄生虫症</u> 、 <u>腸チフス</u> 、 <u>ポリオ</u>
昆虫媒介感染症	<u>マラリヤ</u> (内服)、 <u>デング熱</u> 、 <u>ジカ熱</u> 、 <u>黄熱</u> 、 <u>ウエストナイル熱</u> 、 <u>日本脳炎</u> 、 <u>ペスト</u> 、 <u>糸状虫症</u>
飛沫・接触感染症	<u>流行性髄膜炎</u> 、 <u>インフルエンザ</u> 、 <u>はしか</u> 、 <u>結核</u> 、 <u>ジフテリア</u> 、 <u>SARS</u> 、 <u>新型コロナウイルス感染症</u>
経皮感染症	<u>破傷風</u> 、 <u>住血吸虫症</u> 、 <u>ワイル病</u>
動物感染症	<u>狂犬病</u> 、 <u>エボラ熱</u> 、 <u>マールブルグ病</u> 、 <u>ラッサ熱</u> 、 <u>ニパウイルス感染症</u>
性感染症	<u>クラミジア感染症</u> 、 <u>HIV感染症</u> 、 <u>B型肝炎</u> 、 <u>淋菌感染症</u> 、 <u>梅毒</u>
医原性感染症	<u>C型肝炎</u> 、 <u>B型肝炎</u> 、 <u>HIV感染症</u>

参照：国立感染症研究所感染症情報センター・厚生労働省検疫所 HP

4. 渡航準備：旅の健康9か条

- ①常に衛生を心がける(手洗い、消毒、うがい、状況に応じマスク着用の励行)
- ②最新の安全衛生情報に注意する(感染症の流行等)
- ③生ものは極力避ける(生魚、生貝、氷、生野菜、カットフルーツ等)
- ④十分な休養をとる
- ⑤動物には触らない
- ⑥裸足で歩かない(ホテルの室内でも厳禁)
- ⑦虫刺され予防(デング熱などの対策…DEET成分30%の虫除け利用)
- ⑧“予兆”を見逃さない(下痢、嘔吐、高熱、めまい、切り傷、出血の
症状があれば必ず相談する)
- ⑨意外な盲点は“虫歯”

海外で安心して勉学に打ち込むために、
安全対策の重要性を認識してください

東京大学

スタディツアー 危機管理セミナー

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2024年 6月





基本情報

Republic of Kenya (ケニア共和国)

首都: ナイロビ

人口: 5,403万人

公用語: スワヒリ語、英語

在留邦人数: 742人(2023年10月)

Nairobi (ナイロビ)

東アフリカで最も人口の多い都市(約350万人)であり、周辺主要都市をつなぐ道路網も整備され東アフリカにおける経済の中心地となっています。

Kisumu (キスム)

アフリカ最大の湖、ビクトリア湖に面した、内陸の港湾都市で、ケニア第三の都市です。

Oloitokitok (ロイトキトク)

アフリカ大陸最高峰キリマンジャロの北方に位置し広大な農地が広がっています。





医療・衛生事情①（現地情報）

ケニアの医療事情

- 一般的に、ケニアの医療水準は高くありません。首都ナイロビは東アフリカでも高い水準にありますが、その他の地域は医療システムが非常に貧弱です。
- ケニアで外国人が利用できる病院は私立病院に限られます。公立病院は設備も技量も不十分で医療用品の不足もあり、安心して治療を受けられる環境ではありません。
- 普段から飲み慣れている風邪薬や胃腸薬、頭痛薬等は、日本から持参することをお勧めします。

注意すべき感染症

マラリア



マラリア原虫をもった蚊に刺されることで感染します。日本人は免疫がないため重症化しやすいとも言われます。

デング熱



デングウイルスをもった蚊に刺されることで感染します。潜伏期の後に高熱が突然発症するという特徴があります。

コレラ



コレラ菌に汚染された水や食物の摂取で感染します。激しい下痢と嘔吐が、重度の脱水状態を引き起こします。

狂犬病



狂犬病ウイルスを持った動物に咬まれる等で発症します。発症した場合の死亡率は、ほぼ100%とされています。

黄熱



黄熱ウイルスをもった蚊に刺されることで感染します。重症例では、黄疸や腎不全、出血症状がみられます。



感染症ワクチンには複数回の接種が必要なものもあります。渡航前には、時間的な余裕をもって、トラベルクリニックに相談しましょう。

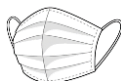


医療・衛生事情②（準備と備え）

ケニア渡航前の準備

1 携行を推奨する物

- **常備薬**
現地では、日用する医薬品であっても、時折不足することがあるため。
- **虫除けグッズ/長袖衣類**
現地において、熱帯病を媒介する虫類との接触を避けるため。
- **マスク**
都市部では、細かい粉塵や排気ガスによる大気の汚染が進行しているため。



2 健康状態の確認

- 首都ナイロビでは一般的な疾患の診療を受けることができますが、他の地域の医療システムは非常に脆弱です。
- 歯科も、衛生面・技術面からして邦人が受診できる環境とはいえません。
- 現地での治療を出来るだけ避けられるよう、不調があれば、渡航前に医療機関を受診しておきましょう。



3 旅レジの登録

- 短期渡航者（3か月未満）の方について、「たびレジ」への登録をお勧めします。
- 日本語のメールで、滞在先の最新の安全情報等を受け取ることができます。
- ケニアで事件や事故、自然災害等が発生した場合、在ケニア日本国大使館は登録された情報を基に、安否確認を行います。
<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>





治安・安全情報①（犯罪）

ケニアの一般治安情勢

- ケニアは、貧富の格差拡大や、部族間の土地・資源を巡る対立、近隣諸国からの難民や違法武器・物資の流入などを背景に、各地で様々な凶悪犯罪や暴力事件、日常的な窃盗・置き引きが発生しています。常に警戒心を持ち、慎重な行動に努めることが重要です。
- 単独で行動しない、夜間は外出しない、外出時の携行品は最小限、としましょう。



スリ、置き引き

- 混み合う車内で、ポケットやカバンの中から貴重品を抜き取られた。
- レストランで食事をした際、椅子の上においていたカバンを盗まれた。
- 自分の荷物を座席の下に置いていたら、盗まれてしまった。

！ 人の集まる場所では貴重品から目を離さない。荷物は身体に密着させておく。

ひったくり

- 夜間歩いていたら、後ろから近づいてきた男数名にパスポートの入った荷物をひったくられた。
- 路上でスマートフォンを使用していたところ走ってきたバイクにひったくられた。

！ 時間を問わず徒歩での移動はしない。路上ではスマートフォンを使用しない。

路上強盗

- 夜道で、向こうから歩いてきた犯人に拳銃を突きつけられ、バック等を強奪された。
- 銀行やATMコーナーで現金を下ろした後、に犯人につけられて、人通りが少なくなったところで襲われた。

！ 不審な場所には立ち入らないこと。万が一、強盗に遭っても抵抗しない。



治安・安全情報②（テロ）

テロ情勢

- ケニアはソマリアと国境を接しており、ソマリアを拠点とするイスラム過激派アル・シャバーブ（AS）によるテロ攻撃が、ケニアの治安を脅かしています。
- ケニアの治安機関等も、依然としてケニア国内にはテロの脅威が存在すると指摘しており、十分な警戒が必要です。



ケニアで発生したテロ事件

過去の事例が示すとおり、今後も同様のテロ攻撃が、外国人の多く利用するホテルやショッピングモール、レストラン等で発生する可能性があります。

2013年9月	ナイロビ市内の高級ショッピングモール「ウェストゲート」で、AS戦闘員による襲撃事件が発生（67名死亡）
2015年4月	ケニア北東部の大学キャンパスで、AS戦闘員が学生・教員を襲撃する事件が発生（148名死亡）
2016年10月	ナイロビの米国大使館にて、警察官がイスラム過激派ISILの戦闘員にナイフで襲撃される事件が発生
2019年1月	外国人がよく使用するナイロビ市内のホテル「Dusit D2」を含む複合施設にて、爆発および銃撃が発生（21名死亡）

！
街中で群衆を見かけた場合は、不用意に近づかず、速やかにその場から離れてください。



現地注意事項

1 違法薬物



- 麻薬、コカイン等の違法薬物は禁制品です。
- ケニア国内では、売買・使用に対して極めて重い刑罰が科されます。
- 違法薬物には絶対関わらないでください。



2 飲料水



- 現地の水道水は、水質の不良や不純物が混入しているため、飲用しないでください。
- 市販のミネラルウォーターや性能の良い浄水器で濾過した水を飲用しましょう。

3 写真撮影



- ケニアでは軍や警察の関連施設、国境、空港、港湾施設や橋などの撮影は禁止です。
- 訪問先で写真を撮影をしたい場合は、必ず撮影の可否を確認してください。

4 動物との接触

- 動物を介した感染症リスク防止のため、現地で動物(犬、猫、げっ歯類、家畜)を見かけても、近寄らないでください。



海外で安心して勉学に打ち込むために、
安全対策の重要性を認識してください。

東京大学

フィールドワーク 危機管理セミナー

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2024年 6月





基本情報

Republic of the Philippines (フィリピン共和国)

首都: マニラ

人口: 1億903万5,343人

公用語: フィリピン語、英語

在留邦人数: 15,728人(2021年12月)

Manila (マニラ)

- フィリピンの首都マニラは、フィリピンの北端ルソン島の西海岸沿いに位置しておりマニラ首都圏(Metro Manila)を構成する1都市です。
- マニラ首都圏はフィリピンにおける経済と外交の中心地であり、マカティ市(Makati)や1948年から1976年半ばまで首都として機能していたケソン市(Quezon)等を含む複数の行政地域の集合体です。





医療・衛生事情①（現地情報）

フィリピンの医療事情

- マニラ首都圏の衛生状態は排気ガスによる大気汚染がひどく、季節を問わず呼吸器系の疾患が多く認められています。
- フィリピンは都市部と地方の格差が大きいため、マニラ首都圏には近代的な設備のある私立総合病院もありますが、地方都市は医療施設の老朽化や衛生状態の悪さ等から、安心して医療を受けられる水準にありません。
- 普段から飲み慣れている風邪薬や胃腸薬、頭痛薬等は、日本から持参することをお勧めします。

注意すべき感染症

デング熱、ジカ熱、マラリア、黄熱

主に、ウィルスをもつ蚊に刺されることで発症する感染症です。感染予防には、虫刺されを防止することが重要です。



感染症ワクチンには複数回の接種が必要なものもあります。渡航前には、時間的な余裕をもって、トラベルクリニックに相談しましょう。

A型肝炎

感染者から排泄される糞便に汚染された飲食物の摂取で感染します。下水道の整備が遅れた地域で流行します。

狂犬病

狂犬病ウイルスを持った動物に咬まれる等で発症します。発症した場合の死亡率は、ほぼ100%とされています。



ポリオ

ポリオウイルスが人の口の中に入って腸の中で増えることで感染し、身体の麻痺を引き起こします。

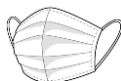


医療・衛生事情②（準備と備え）

フィリピン渡航前の準備

1 携行を推奨する物

- **常備薬**
総合感冒薬、整腸剤等。
- **虫除けグッズ/長袖衣類**
感染症を媒介する虫類との接触を避けるため。また、都市部では冷房が強い。
- **マスク**
都市部では、細かい粉塵や排気ガスによる大気の汚染が進行しているため。



2 健康状態の確認

- マニラ首都圏にはレベルの高い私立総合病院もありますが、地方都市では安心して医療を受けられる水準にありません。
- 現地で出来るだけ体調を崩さないよう、無理のないスケジュールを立てましょう。
- 体調が優れないと感じたときは、身体に負担のかかる行動を控えてください。



3 旅レジの登録

- 短期渡航者（3か月未満）の方について、「たびレジ」への登録をお勧めします。
- 日本語のメールで、滞在先の最新の安全情報等を受け取ることができます。
- フィリピンで事件や事故、自然災害等が発生すると在フィリピン日本国大使館は登録された情報を基に、安否確認を行います。
<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>





治安・安全情報①（犯罪）

フィリピンの一般治安情勢

- フィリピンにおいては強盗事件や刃物、銃器を使った殺人事件が多発しています。
- 銃や刃物の所持規制が緩く、些細な揉め事でも生死に関わる事態に発展する危険性がありますので、常に危機管理意識を持つことが重要です。
- 単独で行動しない、夜間は外出しない、外出時の携行品は最小限、としましょう。



スリ、置き引き、ひったくり

- スーパーマーケットやショッピング・モール等の混雑した場所等で、荷物や貴重品の窃盗被害が多発。
- 繁華街の路上にいたところ、オートバイに携行品をひったくられる被害もあり。

常に荷物から目を離さない。
ひったくり被害に遭った場合は、無理に抵抗しない。

強盗

- 歓楽街等を歩行中、男達に金品を要求され抵抗した際に発砲を受け負傷。
- 乗り合いバスに拳銃を持った複数の強盗が乗り込んできて、金品を強奪されてしまった。

強盗に襲われた場合は、
生命と身体の安全を最優先
に考え、絶対に抵抗しない。

睡眠薬（昏睡）強盗

- 日本人が多く訪れる場所で声を掛けられ飲食を共にした後に意識を失い金品が奪われる睡眠薬強盗が複数発生。
- 初対面の人間から提供された飲食物は摂取しないことが重要。

日本人はターゲットになり
やすいという自覚を持ち、
金品は分散して保管する。



治安・安全情報②（テロ）

テロ情勢

- フィリピンではイスラム過激派組織であるアブ・サヤフ・グループ(ASG)、マウテ・グループ、バンサモロ・イスラム自由運動/戦士団(BIFM/BIFF)のほか、共産党傘下の武装組織である新人民軍(NPA)等が活動しています。



フィリピンで発生したテロ事件

過去の事例が示すとおり、南部の危険情報レベル3(渡航中止勧告)の地域と、首都マニラ等の状況は異なりますが、フィリピン全土において、テロやその他の事案には十分な警戒が必要です。

2017年4月 5月	いずれもマニラ首都圏のマニラ市キアポ地区にて爆発事件が発生。 (合計2名死亡、20人負傷)
2021年2月	ソルゴン州の国道に沿ってNPAが設置した即席爆発装置(IED)が爆発し、 警官3人と民間人が負傷。
2023年2月	ミンダナオ島南ラナオ州マラウィ市の大学内体育館において、キリスト教の ミサの最中に爆発。(4名死亡、50名負傷)



街中で群衆を見かけた場合は、不用意に近づかず、速やかにその場から離れてください。



現地注意事項

1 違法薬物



- 現在フィリピンでは、国を挙げて違法薬物対策に取り組んでおり薬物犯罪の取り締まりはこれまで以上に強化されています。
- 違法薬物には絶対関わらないでください。



2 飲料水



- 現地の水道水は、水質の不良や不純物が混入しているため、飲用しないでください。
- 市販のミネラルウォーターや性能の良い浄水器で濾過した水を飲用しましょう。

3 写真撮影



- 空港や鉄道、軍・警察等の政府関連施設、その周辺地域での撮影は禁止されています。
- 訪問先で写真を撮影をしたい場合は、必ず撮影の可否を確認してください。

4 嗜好品

- フィリピンでは、指定された場所以外での喫煙や飲酒は禁じられています。
- 厳しい取締りがされていますので、喫煙や飲酒は指定された場所で行ってください。



海外で安心して勉学に打ち込むために、
安全対策の重要性を認識してください。

OSSMA アプリ ご利用ガイド

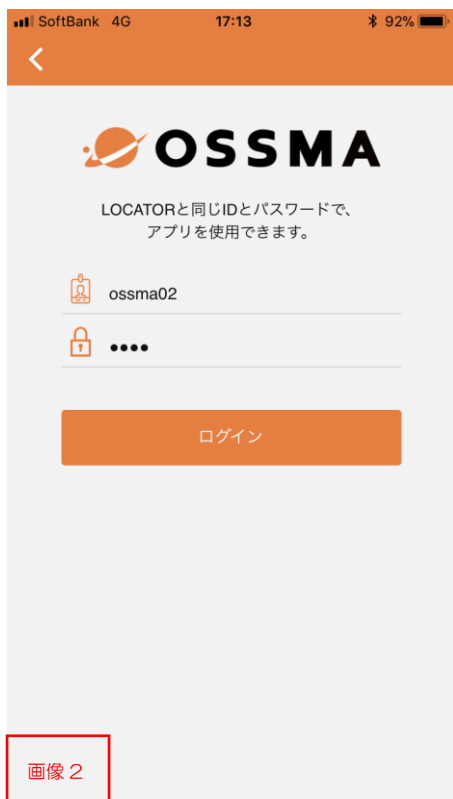


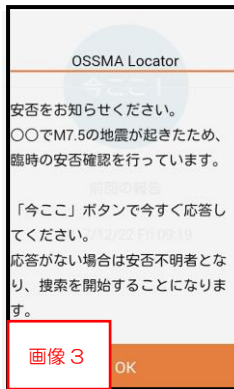
【OSSMA アプリ取得からログインまで】

1. iPhone は App Store から、Android は Play ストアからアプリをダウンロードして下さい（OSSMA のロゴは  ）。
2. アプリを起動し、“スタート” をタップして下さい。（画像 1）
3. ID と PW を入力、「OSSMA アプリ利用規約」に同意の上、ログインして下さい。（画像 2）

【ログインに際しての注意事項】

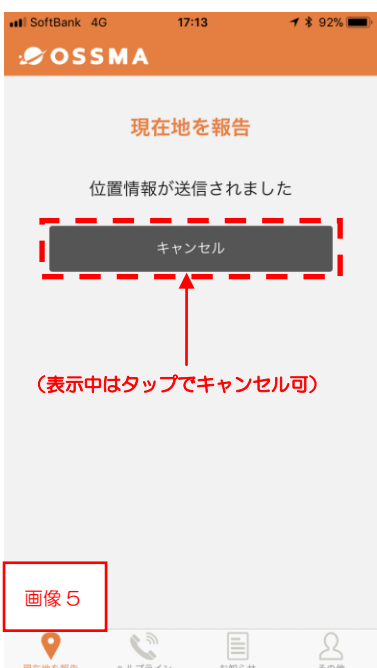
- ID・PW は学校よりお伝え頂くものとなります。
- 初回ログイン時、「OSSMA アプリ利用規約」に同意いただく必要がございます。
- ログインできない場合は、別途 OSSMA 事務局にご連絡下さい。





【「今ここ！」による安否報告について】

1. OSSMA LOCATOR よりプッシュ通知が届きます。（画像 3）
2. 内容を確認したら「今ここ！」をタップして下さい。（画像 4）
3. タップするとご自身の現在地が LOCATOR へ送信されます。
尚、「キャンセル」が表示されている間はタップすると送信が中止されます。（画像 5）
4. 報告が完了すると「今ここ！」の下には最後に報告した日時が表示されます。
5. 「今ここ！」による安否報告は LOCATOR からの通知がない場合でも、会員様に自主的に行っていただく事が可能です。
6. OSSMA からのプッシュ通知が受信できない場合、画面下のお知らせ欄から確認して下さい。



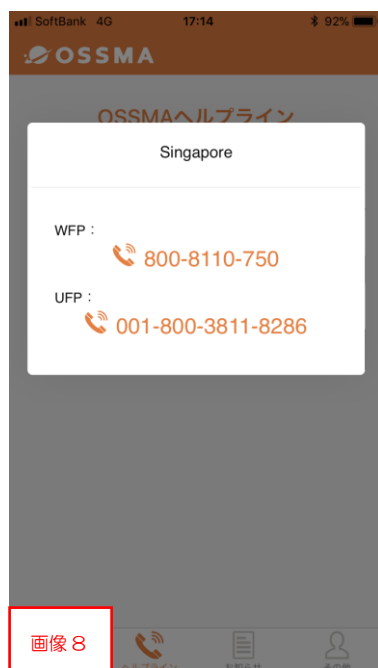
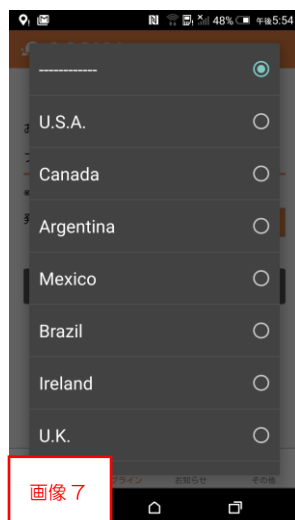
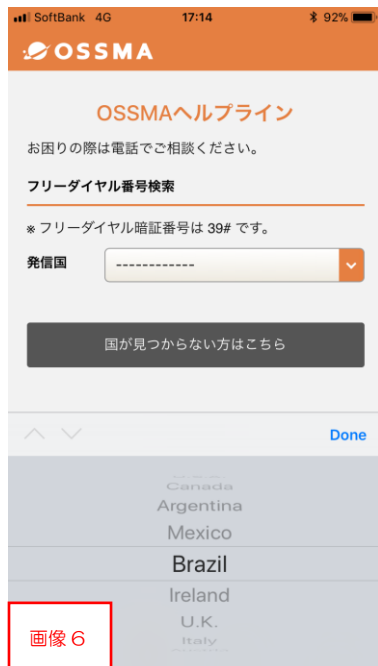
【その他の機能について】

 ⇒ OSSMA ヘルプラインの番号検索
ヘルプライン

 ⇒ OSSMA または所属大学からのお知らせ表示
お知らせ

 ⇒ OSSMA LOCATOR へのリンク、その他情報
その他

※体験活動プログラムの方については、学生様ご自身による OSSMA LOCATOR のご利用・ご入力は頂かないことになっております。



【OSSMA ヘルプラインの検索】

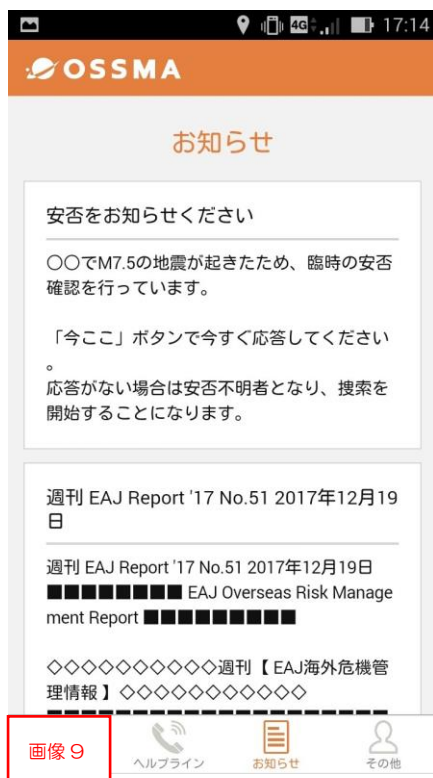
1. 「発信国」一覧からフリーダイヤルを検索。（画像 6、7）
※滞在国によっては一覧にない場合もございます。
2. 国名をタップするとフリーダイヤルが表示されます。（画像 8）
ヘルプラインをご利用の場合は番号をタップし、おかけ下さい。

【注意事項】

発信国一覧にない国はフリーダイヤルをご利用いただけませんので、「国が見つからない方はこちら」をタップの上、表示された番号（+81-3-3811-8286）におかけ下さい。

尚、この番号はフリーダイヤルではありません（有料の国際電話です）ので、ご注意下さい。

※お電話の際、有料電話であることをお伝えいただければ弊社より折返しお電話致します。



【OSSMA または所属大学からのお知らせ表示】（画像 9）

OSSMA や大学からお知らせがある場合、こちらに表示されます。尚、安否確認時のプッシュ通知が表示できなかった場合はこちらで内容を確認することができますが、既にプッシュ通知を受け取っている場合は表示されません。



【その他】（画像 10）

OSSMA 会員 ID：ご自身の会員 ID が表示されます。

OSSMA 会員名：ご自身の氏名が表示されます。

リンク：OSSMA LOCATOR および弊社の個人情報保護方針（弊社 HP）へのリンクを表示しております。

※体験活動プログラムの方については、学生様ご自身による OSSMA LOCATOR のご利用・ご入力には頂かないことになっております。

サービスガイド

OSSMA(Overseas Students Safety Management Assistance)は、会員の皆様が留学生生活を無事に過ごされるよう、滞在中にお困りのことが起きた場合に適切なサポートを提供する危機管理支援サービスです。(24 時間 365 日・日本語サービス)

■OSSMA サービス内容

1. 海外医療アシスタンス	病気や怪我の際、お電話をいただければ安心して日本語で以下のサービスをご利用いただけます。 ① 医師や海外医療機関の紹介・予約(留学先・旅行先で受診をご希望の際にご利用下さい) ② 海外医療機関で受診した場合など電話による通訳サポート ③ 日本人医療者(医師、看護師、臨床心理士)への医療相談(メンタルヘルスも含む) ④ 医療費などの海外旅行保険請求についてのアドバイス ⑤ 医師派遣、緊急移送、日本への帰国搬送の手配、日本での受入病院の手配
2. パーソナル支援	パスポート、航空券、クレジットカード、トラベラーズチェック等の盗難・紛失の際に、関係機関への連絡や再発行のための支援をいたします。
3. 安否確認	ご家族または日本の所属大学の担当者様からの依頼に基づき会員様の安否を確認します。 安否が確認できない場合、日本の所属大学と連携をとりながら現地大使館や警察への連絡、あるいは現地に捜索員を派遣し、安否を確認します。 事件、事故、災害等が発生した場合も同様に、対象地域に滞在されている会員様の安否を確認します。
4. メンタルケア	メンタルヘルスに関するご相談にも応じています。
5. ご家族への渡航サポート	会員の皆様が海外で入院された場合など、ご家族、大学関係者などが現地に救援に向かう場合に、パスポートやビザの緊急発給支援、航空機や宿泊予約、費用の立替等をいたします。
6. 弁護士紹介	刑事・民事を問わず法律アドバイスが必要な場合、弁護士等を紹介いたします。

※ご注意

留学生危機管理サービス『OSSMA』は事前会費制の、留学生危機管理支援サービスであり保険ではありません。入院、治療、検査、カウンセリングなどの医療費、弁護士費用や拉致誘拐対応の専門家にかかる支援費は会員様ご負担となります。
 そのため、本サービス加入と合わせ、海外旅行保険などに加入されることをお勧めしています。

■OSSMA サービスご利用上の注意事項

- ◆サービスのご利用資格 『留学生危機管理サービス OSSMA』は、会員ご本人とご家族を対象として提供されます。
- ◆サービスのご提供期間 海外滞在中。日本への一時帰国中は、本サービスは適用されません。
- ◆サービスが受けられない場合..... ゼネスト、交通スト、天災、戦争、内乱、テロ、暴動、反乱、報復、交通・輸送制限、爆発、原子力事故などの不可抗力により危機管理支援の実施が遅れ、行使できない場合があります。
- ◆個人情報の取り扱い..... 当社では、個人情報の適切な管理・利用と保護に努め、サービス提供の目的以外には利用致しません。

お問い合わせ先

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 OSSMA 事務局
 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14
 電話: 03-3811-8310 FAX: 03-3811-8183
 Email: students@emergency.co.jp
 営業時間: 月～金(祝日除く) 日本時間 10:00～17:00

■OSSMA ヘルプライン フリーダイヤル一覧表

- ※ ご利用の際は、お名前、日本の所属大学名、OSSMA 会員番号をオペレーターにお伝え下さい。
- ※ フリーダイヤルは国によって携帯電話からは利用できないことがあります。その場合は、固定電話を利用いただくか、携帯電話で【+81-3-3811-8286】に国際電話かコレクトコールにてご連絡ください。
- ※ フリーダイヤルは、発信の際の市内通話料や施設利用料(ホテル等)、地域事情などによって費用が発生することがございます。また日本の携帯電話からおかけの場合、上記料金に加えて国際ローミング料金がかかります。これらの料金は、会員様負担となりますので、予めご了承下さい。

国番号は不要です。ダイヤル後、日本語と英語で暗証番号を打ち込むよう案内が流れますので、**39#**を押して下さい。

滞在地		電話番号		
		ワールドフリーフォン	ユニバーサルフリーフォン	トールフリーフォワードینگ
北アメリカ	米国	1-866-208-6226	011-800-3811-8286	1-800-324-2130
	カナダ	1-866-783-6077		
中南米	アルゼンチン	0800-777-0054	00-800-3811-8286	-
	メキシコ	-	-	01-800-099-0255
	ブラジル	0800-761-0485	-	-
ヨーロッパ	アイルランド	-	-	1-800-550-730
	英国	0808-23-42837	00-800-3811-8286	0-800-680-0645
	イタリア	800-8-74077		-
	オーストリア	0800-295677		-
	オランダ	0800-022-3037		-
	スイス	0800-56-3681		-
	スウェーデン	020-795-530		-
	スペイン	9009781-07		-
	デンマーク	8088-0121		-
	ドイツ	0800-1-80-6778		0800-184-4963
	ノルウェー	800-14418		-
	ハンガリー	06-800-16971		-
	フランス	0800-91-5172		0805-080270
	ベルギー	0800-7-6465		-
	ポルトガル	800-8-81-137		-
	フィンランド	0080-9-196-90	999-800-3811-8286	-
	ロシア	8-800-301-7443	-	-
アジア	インドネシア	007803-81-1-0024	-	001-803-015-205-0075
	韓国	00798-81-1-0752	002-800-3811-8286 001-800-3811-8286 008-800-3811-8286	-
	シンガポール	800-8110-750	001-800-3811-8286	-
	タイ	001-800-81-10489		-
	香港	800-90-8875		-
	台湾	00801-81-2713	00-800-3811-8286	-
	中国(北部) ※	10800-811-0781		-
	中国(南部) ※	10800-281-2640		-
	フィリピン	1-8001-8110067		-
	マレーシア	1-800-81-4555		-
オセアニア	オーストラリア	1-800-099-018	0011-800-3811-8286	1-800-984-207
	ニュージーランド	0800-88-5002	00-800-3811-8286	0800-474012

※「ワールドフリーフォン」の中国/北部・南部の切り分け

中国・北部	北京市、天津市、黒龍江省、吉林省、遼寧省、河北省、山西省、山東省、河南省、内蒙古自治区
中国・南部	上海市、重慶市、江蘇省、浙江省、安徽省、江西省、福建省、広東省、湖北省、湖南省、陝西省、貴州省、甘肅省、四川省、雲南省、青海省、海南省、寧夏回族自治区、広西チワン族自治区、新疆ウイグル自治区、チベット自治区

＜中国からのご利用について＞携帯電話から利用できない場合、固定電話またはチャイナテレコムの大衆電話からお掛け頂くか、コレクトコールをご利用下さい。

無料電話がご利用になれない場合や上記以外の国・地域からは、コレクトコールをご利用ください。

+81-3-3811-8286